財団法人 中東調査会
The Middle East Research Institute of Japan
المعهد الياباني لبحوث الشرق الأوسط

かわら版

2007年11月5日
No.264

―中央アジア地域ニュース―

カザフスタン：石油産業に関する評論記事
（11月1-7日付「エクスペルト・カザフスタン」誌）

1. カザフスタン産原油の大規模な流出
   (1) 現在のカザフスタンの燃料エネルギー産業構造では、「競争力で世界50カ国入り」の目標のみならず、持続的発展の目標すら果たせない。国営企業が採掘する原油量は、国内採掘量の17%に過ぎず、残りは国外に流出し、外国企業により精製されている。
   (2) 石油製品の世界的高騰及び租税政策により、国内製油所で採算が取れないことが産油業者を輸出に向かわせており、2006年国産原油及びガス・コンデンセートの約90%が輸出されている。

2. 活発な輸出と国内の石油不足
   (1) 石油製品の輸出が活発であり、今年上半期の石油製品輸出量は、前年同期比32%増加した。この増加により、国内価格が国際価格にまで上昇している。
   (2) 国営石油企業が国外ネットワークを獲得しようとする強い意向は、欧州等への給油で収益を上げようとする目論見の証左であり、国内は慢性的な石油製品不足に直面している。国内の燃料不足はロシアからの輸入がなければ深刻な問題であったろう。

3. 国内製油所の精製率の問題点
   国産原油の国内精製率は、2001年19.2%に対し2006年に18%へ低下している。国内精油技術は世界水準から程遠く、施設は改修の必要な老朽化したものばかりであり、最も深刻な問題は、精製率の極端な低さである。必要なのは生産技術水準の向上と稼働率改善のための投資であるが、これら問題に対する政府の関心は低い。

4. 国内各製油所の現状
   国内の石油製品消費量は年間5-7%上昇しているが、この需要増を現在の製油産業体制で満たすことは出来ない。政府は主要な石油ガス精製施設の本格的改修事業を始めており、今後2年間で、アティラウ製油所に10億ドル、シムケント製油所に6億ドル、パブロダール石化工場に4千万ドルが投資される。

5. 製油所の近代化と新製油所建設の必要性
   石油産業局によれば、石油製品需要が現在のペースを維持すれば、国内製油所の実質処理能力は2010年に1570万トン、2015年に1800万トンに達する。中期予測では新製油施設の建設が必要であるが、現在のところ、このような計画は全く聞かれない。石油精製分野の主要課題は、①効率的操業に不可欠な量の原油の製油所への供給、②精製率向上のための近代化と処理能力向上、③中期的将来における新製油所の建設、である。さらに石油製品取引所システムの創設や国内油送管インフラの開発も必要であろう。現在の好ましくない傾向は、エネルギー確保の問題を専従的に扱う部局或いは委員会創設の必要性を示している。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。
ご質問・お問合せ先　財団法人中東調査会　TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799